苫小牧通信

日本同盟基督教団　苫小牧福音教会
牧師　水草修治
〒053・0045　双葉町2丁目2番一
電話　0144・32・3671

ブログ
「苫小牧福音教会　水草牧師のメモ帳」もどうぞ。

「1＋1」は3

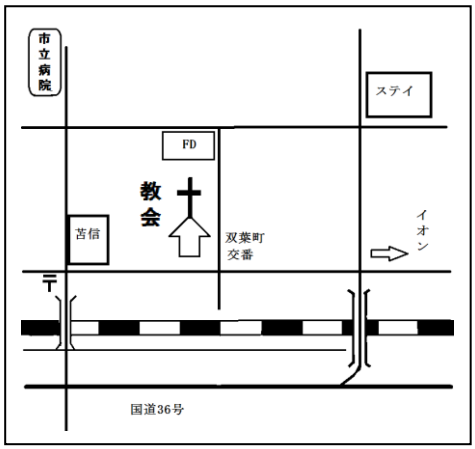
牧師　水草修治

「苫小牧は秋がいいんです。」四月から教会のみなさんから何度も言われました。紅葉した金太郎池の周囲を散歩して、確かに苫小牧は秋がいいと思いました。でも、今年秋は駆け足で去ろうとしています。

私ども家族は、日本の屋根日本アルプスのある長野県の南佐久郡、八ヶ岳の麓、標高八七十メートルの小海町（こうみ）から引っ越してきました。苫小牧福音教会の位置は標高七メートルですから、八六三メートル降りてきたことになります。小海町は二月には氷点下十七度まで下がることもあったので、寒さでは苫小牧も同じようなものかなあと高をくくっていたのですが、始終吹いている風で体感温度がずいぶん低いのです。夏場はこの風が心地よかったのですが、これからいよいよ最初の冬です。

北海道に住み始めて寒さ以上に驚いたことは、人のオープンさです。もう半年前になりますが、四月初旬の朝、私は札幌の神学校の入学式に行くために、支笏湖通りの緑町郵便局前バス停に立っておりました。待つこと五分、新中野町方面から跨線橋を越えて道南バスが来ました。「あ、来た来た」と思ったら、なんとバスはグイーンと右折してイオン方面に行ってしまいました。「緑町郵便局前」というバス停は二つあったのでした。さあ困りました。すると、突然、目の前に軽自動車が停まってドアがあき、「札幌行きのバスに乗りたいんでしょう。さあ、乗りなさい。」とハンドルをもったおばあちゃんが言うではあ

双葉町の教会へどうぞ



集会あんない

日曜日　朝礼拝　午前十時半から
夕礼拝　午後七時から八時

＊日曜お昼はおいしいうどん会があります。

＊個人的な聖書勉強や個人的なご相談にも乗ります。

りませんか。車に飛び乗ると、バスを追いかけてくださいまして、おかげで次の停留所でバスに乗ることができました。生まれて初めてのヒッチハイクでした。お名前も聞かないままお別れしてしまいましたが、紙上でお礼を申し上げます。

また、こんなことがありました。緑町郵便局のＡＴＭの前に並んでおりましたら、前のおばあちゃんが振り返って、「はじめて送金するんだけれど、やり方がわからないので、教えて。」と言うのです。見ず知らずの私に、こんなことを質問するんだ！とびっくりしましたが、教えてあげました。

この二つの出会いから、「北海道の人は、オープンだなあ。アメリカ人みたい。」という印象を受けました。アメリカが移民の国であり、互いのちがいを乗り越えて助け合って生活を立て、国をつくって来たように、北海道も移民の国であるから、こういう気風が育ったのかもしれませんね。でも、この経験について教会の人たちに話すと、「そんなこと、私一度も経験したことありませんよ」と笑われてしまいました。

おたがいに異なっている者どうしが、互いの違いを非難すればマイナスになりますが、受け入れ合えば1足1が3にも4にもなります。受け入れあって、互いに活かしあって、ともに生きることについて、聖書はつぎのように語っています。

「ですから、ちょうど、からだが一つでも、それに多くの部分があり、からだの部分はたとい多くあっても、その全部が一つのからだであるように、キリストもそれと同様です。

なぜなら、私たちはみな、ユダヤ人もギリシヤ人も、奴隷も自由人も、一つのからだとなるように、一つの御霊によってバプテスマを受け、そしてすべての者が一つの御霊を飲む者とされたからです。確かに、からだはただ一つの器官ではなく、多くの器官から成っています。たとい、足が、『私は手ではないから、からだに属さない』と言ったところで、そんなことでからだに属さなくなるわけではありません。たとい、耳が、『私は目ではないから、からだに属さない』と言ったところで、そんなことでからだに属さなくなるわけではありません。もし、からだ全体が目であったら、どこで聞くのでしょう。もし、からだ全体が聞くところであったら、どこでかぐのでしょう。

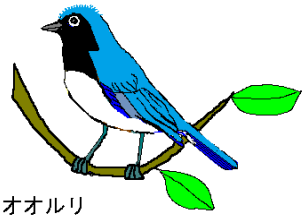
しかしこのとおり、神はみこころに従って、からだの中にそれぞれの器官を備えてくださったのです。もし、全部がただ一つの器官であったら、からだはいったいどこにあるのでしょう。しかしこういうわけで、器官は多くありますが、からだは一つなのです。

そこで、目が手に向かって、『私はあなたを必要としない』と言うことはできないし、頭が足に向かって、『私はあなたを必要としない』と言うこともできません。それどころか、からだの中で比較的に弱いと見られる器官が、かえってなくてはならないものなのです。」（1コリント十二章）

お知らせ

十一月二十日（日）の朝の集会では、「聖書も教会も初めて」という方のために、わかりやすい聖書のメッセージを用意していますから、どうぞ気軽にお越しください。午前十時半からです。また、よかったら、お昼に美味しいうどんが出ます。

空の鳥を　野のゆりを


オオルリ

「だから、わたしはあなたがたに言います。自分のいのちのことで、何を食べようか、何を飲もうかと心配したり、また、からだのことで、何を着ようかと心配したりしてはいけません。いのちは食べ物よりたいせつなもの、からだは着物よりたいせつなものではありませんか。

空の鳥を見なさい。種まきもせず、刈り入れもせず、倉に納めることもしません。けれども、あなたがたの天の父がこれを養っていてくださるのです。あなた方は、鳥よりも、もっとすぐれたものではありませんか。あなたがたのうちだれが、心配したからといって、自分のいのちを少しでも延ばすことができますか。

なぜ着物のことで心配するのですか。野のゆりがどうして育つのか、よくわきまえなさい。働きもせず、紡ぎもしません。しかし、わたしはあなたがたに言います。栄華をきわめたソロモンでさえ、このような花の一つほどにも着飾ってはいませんでした。きょうあっても、あすは炉に投げ込まれる野の草さえ、神はこれほどに装ってくださるのだから、ましてあなたがたに、よくしてくださらないわけがありましょうか。信仰の薄い人たち。

そういうわけだから、何を食べるか、何を飲むか、何を着るか、などと言って心配するのはやめなさい。こういうものはみな、天の父なる神を知らぬ人々が切に求めているものなのです。しかし、あなたがたの天の父は、それがみなあなたがたに必要であることを知っておられます。

だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。だから、あすのための心配は無用です。あすのことはあすが心配します。労苦はその日その日に、十分あります。」（イエスの山上の説教から）

私の父は四十九歳のとき、教会に通い始めました。場所は神戸市の須磨という場所です。聖書を読み始めた父は、このイエスのことばが一番心に深く刻まれたようで、夜道を帰って来るとき、以前は「鞭声粛々・・・」などと吟じながら帰ってきていたのが、このイエスのことばをそらんじながら歩いてくるようになりました。

ある会社で営業部の責任をとっていて、毎日毎日、お金の心配ばかりしていなければならなかった父は、私に言いました。

「イエス様は『何を食べるか、何を飲むか、何を着るか、などと言って心配するのはやめなさい』というけれど、ほんんとうにお父ちゃんは、ずっとそういう心配ばかりして生きてきたんや。それが、イエス様は、心配せんでいい。天の父なる神が心配してくれるんやと、教えてくれた。イエス様を知って、ふっと肩の荷が軽くなったんや。」と。

「すべて疲れた人、重荷を負っている人はわたしのところに来なさい。わたしが休ませてあげます。」（マタイ福音書十一章二十八）

母は大地、父は天

「母親が木が根をおろす大地であったとすれば、父親は樹冠がそこに向かって伸びてゆくところの天である。」とスイスの医師テオドール・ボヴェーは言っています。大地は木の根を囲み、守り、養分を供給するものですが、天はその木から超越した目標としてあります。木は天を指して伸びていくことで世界へと開かれていくのです。

長男が三歳になったばかりのころ、おもしろいことがありました。「あ！電車に遅れそうだ。飛んでいかなくちゃ」と私が叫んだのを聞きつけて、息子は「おとうさんは空をとべるんだ。」と言うのです。家内と私はいたずらう心を起こして、「うん。お父さんは飛べるんだよ。」と言って飛ぶ格好をしてみせました。それから、しばらくの間、息子は私が空を飛べると思っていました。三歳児にとって、父親は、まるで全能者のように映るものです。お父さんが言うことは絶対であり、お父さんはなんでもできると三歳児は思っています。だから、この時期は特に父親のしつけにおける役割は重要で有効です。

三歳から六歳は「第一の自立期」です。今まではただ親のいうままになんでもしていたのが、自分のうちに善悪の基準を形成して、その基準にのっとって自分で決めて行動したいと思うようになります。それが親にはただ反抗しているように見えるので反抗期と呼ばれるのですが、実は自立をめざしてもがいているのです。

三歳児は、この内なる善悪の基準を作るためにいろいろ悪さもします。どこまでやると、コラ！と叱られるのか限界を見極めるために。だから限界にきた時、きちんと叱ってやるのが大切です。三歳児にとって父はあたかも全能者なのですから、効き目があります。この時期にしっかりと、まことの神を畏れること、父母を敬うこと、殺すな、盗むな、人のものをやたらと欲しがるな、約束は守りなさいといったごく基本的なルールを教える。神は、父親をいわば代理に立てて子どもをしつけさせるのです。神は父親に子に対する権威を与えておられます。権威ある指導を受けなかった子どもは、不安や劣等感そして反抗へと駆り立てられます。きちんと叱ってやらないと子どもは自己処罰をするようになります。その方法の一つは、わざわざ悪いことをして、親が自分を罰するようにしむけ、罰せられて満足するということです。叱るべきとき、しっかり叱ることが、子どもの良心の不安を取り除きます。

何らかの事情で父親がいない場合はどうするか。お母さん。大事なことは、その子の父親を決してけなしてはいけないということです。母親がその子が胸に抱く父親像を作るのです。すばらしい父親像を持つ子は健やかに育つことができます。

けれども、なによりのベストは聖書を開き子どもに正義と愛に満ちた天の父なる神様を教え、御前で、ともに祈ること、これをおいてほかにはありません。

「父たちよ。あなた方も、子どもをおこらせてはいけません。かえって主の教育と訓戒によって育てなさい。」エペソ六:四